

夢 塾 だ よ り

～ 幕尻からの下克上 ～ (第30号)

令和2年 1月 27日

令和二年の大相撲初場所、優勝したのは42人中幕内力士で一番下の“幕尻”と呼ばれる徳勝龍でした。昨年の夏場所以外は十両で、今場所が4場所ぶりの幕内復帰でした。33歳5カ月の初優勝は3位の年長記録。奈良県出身としては98年ぶりの優勝です。インタビューでは「自分なんか優勝して、いいんじゃないでしょうか」と語ってファンを沸かせました。「優勝は意識していない」と語っていたことに触れると「バリバリ、インタビューの練習をしていました」と応じて、またまた国技館内の笑いを誘いました。さすがに笑いのとれる関西人です。



ただ、胸には秘めたものがあつたのです。場所中に、恩師が急逝。「監督が、見てくれてたんじゃなくて、一緒に土俵にいて戦ってくれたような気がします」と涙声で振り絞った。両親に対しても「いつもは照れ臭くて言えないですけど、お父さん、お母さん、生んで、育ててくれてありがとうございます」と率直な思いを口にして、拍手を浴びました。そしてこのように結びました。

「もう33歳ではなくてまだ33歳と思って頑張る」・・・私も涙しました。

さて、今年で最後となる大学入試センター試験が終わりました。塾生6人が受けてきました。出来・不出来が交錯する中ですが、2次試験も平常心で頑張ってもらいたいと思います。また、24日には県立高校の推薦入試の合格発表があり、開邦高校にMさん、読谷高校にHさん、北谷高校にK君がそれぞれ内定しました。3月には一般入試(高校)も控えています。

「塾」の仕事は「入試」という人生の節々での関門に立ち合う責任を伴う仕事です。毎年この時期は予断を許さない緊張の連続です。試験問題の予想とその対策、生徒の情緒の安定を図る何気ない言葉がけ、風邪を引かない健康面への配慮等、万全な体勢で試験場へ送り出すことです。

47年前の私の東京での浪人時代、予備校の古文の先生にスゴイ先生がおられました。マイクを腕組みした斜め先に持つ先生でした。入学試験を制するのは『コンセントレーション、集中力』と言われた先生こそ、元号「令和」を推挙した中西進先生だったのです。集中力を一番大切な時に出せるのは簡単なことではありません。日々の地道な努力の積み重ねに他なりません。ひたすら努力です。努力の先に集中力は生まれるのです。一番一番の集中力、徳勝龍の優勝が物語っています。